

令和4年7月6日(水)

## モラルサイエンス研究会発表要旨

企画:モラルサイエンス研究推進プロジェクト

### 【テーマ】

「ジェンダーと宗教:そのかわりを問う問いに着目して」

### 【要旨】

道徳科学研究所モラルサイエンス研究推進プロジェクト主催の公開研究会「ジェンダーと宗教:そのかわりを問う問いに着目して」を7月6日に開催した。

日本の宗教界における宗教者の性差、役割差などにかかわる議論はこれまでもなされてきた。しかし、その議論は世襲的または慣習的・文化的に語られている傾向にあり、宗教研究においてはジェンダーの視点は主流化してはおらず、ジェンダー視点を導入した学術研究も積極的ではないようである。

こうした現状を踏まえ、スピーカーとしてお招きした猪瀬優理氏(龍谷大学教授)からの報告では、ジェンダー概念、ジェンダーの研究動向を概観し、これまでに何が問われてきて、今後は何が問われていくのか、問われるべきなのかなどの視点を示していただき、「現代社会の諸問題を(踏まえて上で宗教の役割を)考えるためにはジェンダーの視点が重要ではなく不可欠である」といった重要な視点をも提示された。報告後の質疑応答ではこれらの視点に関して活発な議論がなされた。